

困ったときの  
問い合わせ先  
(相談機関)

- 生きていくのがつらい、しんどい、厳しい
- いじめに遭っている
- 虐待を受けている
- 勝手に人のSNSに掲載された画像を削除したい
- SNSのアカウントが誰かになりすまされた

一人じゃないよ!



文部科学省 24時間子供SOSダイヤル

いじめ問題やその他の問題に悩む子どもや保護者の相談機関です。

☎0120-0-78310 [24時間年中無休]



法務省 子どもの人権110番

子どもをめぐるさまざまな人権問題に関する相談を受け付けています。

☎0120-007-110 [月~金8:30~17:15]



18歳までの子どもがつながる チャイルドライン®

子どもの気持ちを聞き、寄り添い子どもが自分で考え自立することを支援する18歳までの子どものための相談機関です。

☎0120-99-7777 [16:00~21:00 / 12月29日~1月3日休み]



生きづらびっと

「生きていくのがむなし・つらい」「友達がいない・孤独だ」「世の中、社会から消えてしまいたい」など誰にも相談できない悩みに、SNSで相談できます。

[受付8:00(月・金6:00)~22:00]



ヤングテレホン(沖縄県警察本部少年課少年サポートセンター)

児童生徒や保護者を対象とし、ネット被害や児童虐待、非行などの少年問題に関する相談を受けています。

☎0120-276-556 [月~金8:30~17:15]



厚生労働省「まもろうよ ころも」

悩みや不安を抱えて困っているとき、気軽に相談でき、電話・メール・チャット・SNSなどについて、さまざまな相談窓口を紹介します。



法務省インターネット人権相談受付窓口

インターネットによる人権相談を受け付けており、削除依頼の方法について相談者に助言を行うほか、内容に応じて、法務局からプロバイダに削除要請を行います。



インターネット違法・有害情報相談センター

インターネット上の誹謗中傷、名誉毀損、プライバシー侵害、人権侵害、著作権侵害などに関する書き込みへの対応や削除要請方法、その他トラブルに関する対応方法などについて案内しています。



「ちゅらマナープロジェクト」は、高校生が主体となりマナーの向上やルールの大切さなどについて高校生が「自分で考える」機会の創出を図るものです。



プロジェクトメンバー 朝倉 陽太 / 上良 一矢 / 喜屋武 煌大 / 大城 心雪 / 大城 姫亜良 / 伊芸 桜 / 室田 風輝 / 外間 蒼空 / 新垣 遥大 / 久高 麗香 / 島袋 理央 / 玉城 紅夏 / 前原 結衣 / 松井 美寿紀 / 菅野 まみ / 有馬 小夏 / 坂元 莓花 / 儀間 奏真 / 上原 一輝 / 比屋根 愛梨 / 我如古 愛弥 / 田村 瑠華 / 吉本 皆喜 / 島田 星衣 / 比嘉 優里 / 安仁屋 乃唯 / 兼次 柚帆 / 久高 麗愛 / 金城 咲澄 / 座安 あみ / 大城 羅夢 / 大宮 優羽香 / 東恩納 時弥 / 山内 愛那 (順不同)

参加校一覧 辺土名高校 / 糸満高校 / 石川高校 / 南部工業高校 / 真和志高校 / 沖縄水産高校 / 豊見城南高校 / 美里高校 / 北部農林高校 / 浦添商業高校 / 西原高校 / 南部商業高校 / 嘉手納高校 / 宜野湾高校(通信制)

# ちゅらマナープロジェクト ハンドブック 2025-2026

戦後80周年 高校生が考える「平和と対話」

対話でつなごう  
平和のビット



## ちゅらマナープロジェクトとは？

高校生が主体となりマナーの向上やルールの大切さなどについて高校生が「自分で考える」機会の創出を図るものです。

私たち高校生が、自分たちで考えて問題解決法をさぐるプロジェクトです！



### 活動紹介

沖縄県内14校から34名の高校生が集い、「平和」と「対話」をテーマにワークショップを実施しました。沖縄戦の歴史や基地問題について学んだ後、学校や地域の課題を題材に対話を重ね、互いの意見を尊重することの大切さを体感しました。フォーラムでは学びの成果を発表、その後これまでの学びや議論をまとめ、本誌を制作しました。

#### 01 事前ワークショップ



沖縄戦と基地問題、対話で作る平和についての学習を行いました。

#### 02 フォーラム発表準備



各班に分かれフォーラムで発表する準備を行いました。

#### 03 フォーラム発表



ワークショップで学んだことを各班の代表者がフォーラムで発表しました。

#### 04 事後ワークショップ



フォーラムの振り返りを行い、平和や対話について各班で話し合いを行いました。

#### 05 写真撮影



自分たちがモデルになり、スタジオで撮影を行いました。

完成!!

完成したハンドブックをぜひ見てね

### 監修者紹介

学生時代からアジアや沖縄各地を巡り、戦争体験の聞き取りや戦跡訪問を重ね、戦争を多角的に考察。この経験を基に、沖縄戦や基地問題の「わからない・気づかない」という学習ハードルを下げる工夫を重視している。現在は「問いと対話」を軸にした歴史学習のワークショップやガイドを企画・実施し、平和を築く力を育む教育に取り組んでいる。特に中高生との継続的な学びの場づくりに力を入れている。地域社会とも連携しながら活動。

#### 安里 拓也(あさとたくや)先生

- ファシリテーター / ワorkshop企画・開発 平和学習コーディネーター
- 社会調査士
- 第2回「ひめゆり」を伝える映像コンテスト 優秀賞受賞
- 琉球新報 教育面リレーコラム『未来へいっぽにほ』執筆
- 修学旅行受け入れや沖縄県・各市町村の平和学習関連事業



### 目次

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 ちゅらマナープロジェクトとは？<br>監修者紹介 安里 拓也先生 | 6 平和は、どう作ればいい？                                |
| 2 戦後80年高校生平和宣言                     | 7 いじめを、構造から考えてみた！                             |
| 3 高校生と教職員1,504名の平和への本音             | 8 高校生が考える対話                                   |
| 4 沖縄戦と米軍基地について調べてみた                | 9 良い話し合いの進め方                                  |
| 5 戦争と平和を伝える場所                      | 10 高校生の「ちゅらマナーアップ」フォーラムを開催<br>安里 拓也先生からのメッセージ |

## 戦後80年高校生平和宣言

豊かな自然は破壊され、文化が燃やされ、大切な命が奪われた80年前の**沖縄戦**。多くの尊い命が奪われ、犠牲者の中には、今の私たちと変わらない若者も戦火に巻き込まれ命を落としていきました。体験者の人々が受けた悲しみは深く刻み込まれ、癒えることはなく、残された人々の記憶に今もなお残り続けている。そんな苦しみの中、「二度と戦争は起きてはいけない」と、後世に伝えるために、証言を残し今も私たちに語りかけている。私たちが暮らすここ沖縄は日本で唯一民間人をも巻き込んだ激しい地上戦が起きた島。

戦争を知る戦争体験者の高齢化は進み、戦争を語る**戦跡**も時とともに風化されつつある。

そんな中、戦のない沖縄の世(ゆー)は、今も保たれている。しかしそれは、決して当たり前のことではない。

だから、私たちは知らなくちゃいけない。  
あの惨劇が自然豊かな美しいこの沖縄の地で起こっていたことを。



知らなくちゃいけない。  
先人があの惨劇を生き抜き、生きることを諦めなかったからこそ、この命があることを。

気付かなくちゃいけない。  
今私たちができるあらゆる手段を使って世界のどこかで今もなお、戦争が行われ多くの命が失われていることを。



考えなくちゃいけない。  
戦争がないことだけが、平和世(へいわゆー)ではないことを。

戦後沖縄に残る**基地問題**や、世界で今も行われている戦争など、世界中が不安定な今先人達が伝えてくれた「命どう宝」の大切さをあらためて実感し、私たち沖縄の高校生はこの悲惨な記憶を継承し、平和の尊さを次世代へと繋いでいく。

それが私たちのできる平和な未来への一歩。  
そのために私たち高校生は、自ら語り継ぎ部となって、これからも**沖縄戦**の惨劇と同じ過ちを繰り返してはならないことを後生に伝え、他者と**意見を交わし合い**ながら平和を築き戦争に対して疑問を持ち続け、恒久平和への思いを強く持ち沖縄から世界へ平和世(ゆー)を広げ発信していくことを今日、ここに宣言します。

高校生代表者会議実行委員会

※この宣言は、県内の高校生の代表者によって話し合いを行いみんなで決めた平和宣言です。

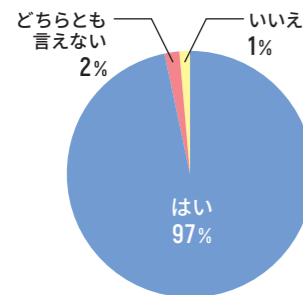


# 高校生と教職員1,504名の 平和への本音

「平和って、どう学べばいいの?」そんな素朴な疑問から始まった今回のアンケート。ちゅらマナープロジェクトやフォーラムの場で協力を依頼し、1,504名が回答。私たち高校生と先生たちの答えには、現地で学ぶ体験や話し合う時間を求める声が多く集まりました。あなたと同じ世代の“リアルな声”を、ここで紹介します。



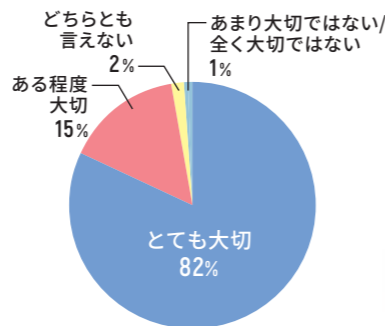
## Q1 沖縄戦について学んだことはありますか?



約半数が『学校の授業』、4割が『資料館や慰霊碑への訪問』、『テレビや本、映画などのメディア』で学んだと回答しています!



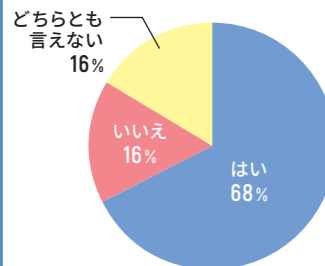
## Q2 沖縄戦を学び、その記憶を継承していくことは大切だと思いますか?



理由として、「悲劇を繰り返さないために記憶を継承し、平和を守ることが大切だ」という意見が最多でした。



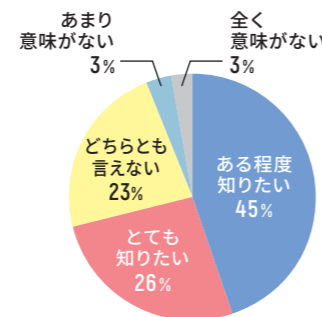
## Q3 基地問題について学校の授業などで学ぶ機会はありましたか?



意外に「はい」が少ないね!



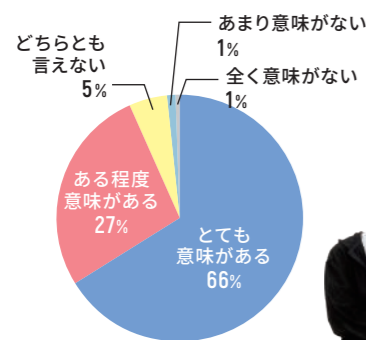
## Q4 基地の成り立ちや様々な問題について、詳しく知りたいと思いますか?



7割は「知りたい」と思っているけど、3割は「どちらとも言えない」や「意味がない」と思っているんだね。



## Q5 学校で行われる平和学習には、意味があると思いますか?



9割が「意味がある」と回答しているね!



## Q6 どのような平和学習があれば、もっと有意義になると思いますか? (自由記述)

- 1 資料館に行く
- 2 現地に行く
- 3 戦争体験者の話を聞く

体験型・現地学習へのニーズが強いね!



# 沖縄戦と米軍基地について 調べてみた

沖縄戦と米軍基地について、ちゅらマナープロジェクトメンバーが調べたことを皆さんにお伝えします。私たちが暮らす沖縄で起きた出来事を知ることは、平和について考えることにつながります。



## 沖縄戦

### 沖縄戦の特徴と住民の巻き込まれ方

沖縄でも戦前から、教育や生活の中で軍国主義化が進み、人々は「お国のため」に尽くすことを求められていました。

その中で始まった沖縄戦は、日本国内で唯一、多くの一般住民が戦場に巻き込まれた地上戦でした。目的は勝利ではなく、米軍の本土上陸を遅らせる「出血持久戦」で、沖縄は本土防衛の「捨て石」とされました。

制空・制海権を失った中で住民は動員され、1945年の米軍上陸で生活の場は一瞬で戦場へと変わりました。

### 犠牲と教訓

沖縄戦の戦没者約20万人のうち、約半数は一般住民でした。住民は米軍の攻撃だけでなく、日本軍から食料を奪われたり、自決に追い込まれたりしました。

この経験から、戦後「軍隊は住民を守らない」という重い教訓が生まれました。

### 現代への問い

体験者の「二度と繰り返してはならない」という言葉には、強い重みがあります。

80年前の出来事を自分事として捉え、命を最優先にする平和な社会をどう築くのか。

今の私たち一人ひとりが考えることが求められます。



## 米軍基地

### 基地問題の背景

現在、日本の国土の1%にも満たない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中しています。この背景には、戦前からの日本軍による基地建設に加え、沖縄戦中や戦後の米軍占領下で、住民の土地が強制的に接収された歴史があります。1972年の本土復帰後も、多くの基地は残されたままです。

### 普天間基地と辺野古移設

特に深刻なのが、市街地の中心にある普天間飛行場です。激しい騒音や事故の危険、環境汚染などが問題となり、その危険性を除去するために辺野古への移設が進められています。

しかし、辺野古・大浦湾にはジュゴンなどの貴重な生き物が生息しており、環境破壊が懸念されています。さらに、新たな機能が追加される計画もあり、県民の十分な理解が得られていないのが現状です。

### 私たちへの問い

基地問題の根底には、日米安全保障条約のもとで沖縄に過度な負担を集中させてきた構造があります。この問題は沖縄だけのものではなく、日本全体で考えるべき課題です。

私たち一人ひとりが自分事として向き合い、基地負担のあり方を考えていくことが求められています。



## さらに詳しく調べよう!

「平和教育ハンドブック」は、戦後80年の節目に、県内の高校生16名が「平和教育ハンドブック」制作プロジェクトに参加し、平和に関する協議や平和関連施設での学びを重ね、完成させました。ちゅらマナーハンドブックと併せて、平和教育ハンドブックも見てください。右の二次元コードから閲覧できます。



# 戦争と平和を伝える場所

沖縄には、戦争の体験や平和への願いを伝える場所があります。ここでは、私たちと同じ高校生世代と関わりの深い資料館や慰霊碑、ガマを紹介します。



ジャンル	名称(所在地)	概要
資料館・展示館	ひめゆり平和祈念資料館 糸満市伊原 671-1	ひめゆり女子学徒隊に関する証言映像、遺品、写真、当時の記録資料を展示している資料館です。学徒隊が配置された壕(ガマ)の様子を再現したジオラマや、看護活動の実態を示す資料が公開されています。展示を通して、学徒隊員の経緯や、沖縄戦における女子学生の役割を知ることができます。
	一中戦没学徒資料室 那覇市首里金城町1-7(養秀会館内)	首里第一中学校から動員隊として動員された中学生の遺書、遺影、関連資料を展示しています。生徒が残した文章や写真を中心に構成されており、動員の状況や当時の学校と戦争との関係を知ることができます。校内に設置された資料室として、学徒隊員の記録を伝えています。
	沖繩陸軍病院南風原壕群20号 南風原町喜屋武 257	沖縄戦時に陸軍野戦病院として使用された壕の一部を公開している施設です。壕内部では、病院として使われていた当時の構造や空間が保存され、医療活動に関する解説展示が行われています。戦時医療の実態や壕の役割について学ぶことができます。
	沖繩市戦後文化資料展示館“ヒストリート” 沖繩市中央 2-2-1	戦後の沖繩市の歴史や街の変化を紹介する展示館です。公文書、写真、生活用品などの資料を通して、戦後復興期から現在に至るまでの沖繩市の歩みを知ることができます。戦後社会の変化や市民生活の様子が分かる展示内容となっています。
慰霊碑・記念碑	沖繩師範健児の塔 糸満市摩文仁	沖繩師範学校男子部などの生徒によって編成された鉄血勳皇隊を祀る慰霊碑です。学徒隊員によって戦場に送られた生徒たちの存在を記念し、沖縄戦における師範学校生徒の動員を伝えています。摩文仁地区に建立されています。
	平和の礎 糸満市摩文仁444番地	沖縄戦で亡くなった戦没者の名前を刻んだ慰霊碑で、約24万余名が刻銘されています。日本人だけでなく、米国人や他国出身者、軍人・民間人を区別せず記載されている点の特徴です。沖縄戦の犠牲者数や構成を知る手がかりとなる場所です。
	ひめゆりの塔 糸満市伊原671-1	ひめゆり学徒隊が配置され、多くの学徒が亡くなったガマの近くに建てられた慰霊碑です。ひめゆり学徒隊の犠牲者を追悼する目的で建立され、周辺には説明板が設置されています。資料館とあわせて学徒隊員の歴史を理解することができます。
	白梅之塔 糸満市真栄里	沖繩県立第二高等女学校の学徒を祀る慰霊碑です。沖縄戦で動員され、戦死した学徒の存在を記念しています。沖縄戦における女子学徒隊員の一例として位置づけられています。
ガマ(自然壕)	沖繩師範健児の塔のガマ 糸満市摩文仁	沖繩師範学校の男子学生たちが使用した壕で、戦争末期の状況を示す場所として知られています。壕の構造や内部空間を通して、当時の避難や戦闘の状況を知ることができます。慰霊碑とあわせて見学されることが多いガマです。
	ヌママチガマ 八重瀬町新城	沖縄戦中に野戦病院として使われた壕で、多数の負傷者が収容されました。現在は、壕内部の構造や用途について説明が行われています。戦時中の医療施設としての役割を知ることができます。
	糸数アブチラガマ 南城市玉城667-1	ひめゆり学徒隊が配属され、避難場所や野戦病院として使われた壕です。内部は比較的広く、当時の使用状況についての解説があります。沖縄戦における壕の役割や、学徒隊の配置状況を具体的に学べます。

# 平和は、どう作ればいい？

私たちは「戦争がない=平和」だと思いがちです。でも、平和学の父ヨハン・ガルトゥング博士は、平和には「消極的平和」と「積極的平和」の2つの種類があると言いました。

平和学の父  
ヨハン・ヴィンセント・ガルトゥング博士  
ノルウェーの社会学者・数学者



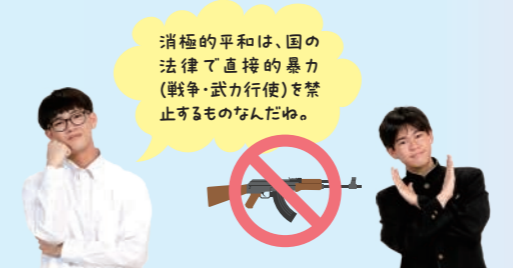
## 消極的平和

ひとまず戦争がない状態

- 戦争やケンカなど、目に見える“直接的な暴力”がない状態。「とりあえず争いは起きていないよ」というレベルの平和。
- 特に戦争という直接的な暴力を二度と起こさないための国の守るべきルール(戦争放棄、軍隊不保持など)を日本国憲法に示しています。

消極的平和の中にある  
『隠れた問題』

- いじめがある
- 殴る・からかう・持ち物を隠す
- 逃げ場がないクラスの仕組み



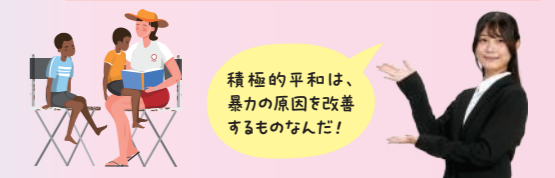
## 積極的平和

真の意味で公正で平等な状態

- 平和の理想的な状態(積極的平和)を目指し、平和を邪魔する3種類の暴力(直接的・構造的・文化的)をなくするという考え方。
- 真の意味で公正で平等な状態。
- いじめ・差別・貧困・不公平など、目に見えない“暴力”もない状態。
- 「みんなが安心して暮らせる環境」こそ、本当の平和。

目に見える平和

- 戦争がない
- ケンカがない・いじめがない
- 不公平がない・みんなが生きやすい
- SDGsへの取り組み



## ガルトゥング博士が提唱した3つの暴力の具体例

直接的暴力

- 定義** 銃やナイフ、言葉など、具体的な手段で他者に危害を加える物理的・精神的な行為。
- 例** 戦争、テロ、いじめ、体罰、暴言。



構造的暴力

- 定義** 社会の制度やシステム(貧困、格差、抑圧、差別など)に組み込まれた不平等な力関係が、人々の生存や可能性を奪う見えない暴力。加害者が特定できないことが多い。
- 例** 貧困、飢餓、教育・医療格差、差別制度、不正な経済システム。



文化的暴力

- 定義** 直接的・構造的暴力を「当然」として容認・正当化するような社会の考え方、価値観、宗教、慣習、言説など。
- 例** 「貧困は自己責任」「学歴がなければ不幸」「ある民族は劣っている」といった偏見、プロパガンダ、無関心な風潮。



# いじめを、構造から考えてみた！

6ページで学んだガルトゥング博士が提唱した「3つの暴力」に基づき、「いじめ」をテーマに「積極的平和」について考えてみました。



**step 1**  
いじめを定義する

直接的暴力

**Q1** いじめとは具体的にどんなこと？

- 暴言、暴力、無視する
- 影口、SNS
- 人に嫌な思いをさせる(差別、仲間はずれ、無視)
- 人を傷つける(殴る、悪口、物を隠す)

**step 2**  
構造的暴力の深掘り

構造的暴力

**Q2** なぜ、いじめが起きやすいのか？

- スクールカーストがある
- 相手を理解する心が無い(自分中心)
- 無関心
- 相談できる雰囲気がない
- 話し合う機会がまずない

**step 3**  
文化的暴力の探求

文化的暴力

**Q3** Q2で挙げたことを『仕方ない』『当たり前』とさせているクラスの空気や言葉は何か？

- いじりとの違い
- いじられキャラ
- 関わりたくない
- 興味がない
- 自分は関係ない
- その場の雰囲気

**step 4**  
解決策の共有

積極的平和に向けた行動

**Q4** Q3で特定した「空気や言葉」を変えるための具体的なアクションは？

- 先生が積極的に関わる(カウンセリングなど)
- 積極的なコミュニケーション
- 「匿名で意見箱」ではなく、「先生抜きで、クラスの課題について月1回話し合う時間」を設ける
- スクールカウンセラーや相談窓口の情報を「悩みがある時」ではなく「いつでも気軽に話せる場所」として知らせる

Communication

# 高校生が考える対話

私たち、ちゅらマナープロジェクトメンバーは、「積極的平和」を学び、いじめを考察する中で、「対話」の大切さに気づきました。ここでは私たちちゅらマナープロジェクトメンバーの考えを皆さんに伝えます。



**日常の中にあるすれ違い**

皆さん、日常で意見がすれ違った時に対立が起こったことはありますよね？  
例えば、私たちの身近な話題でいうと、最近は身軽な服装を好む人もいて、学校でも快適に過ごすために制服をなくしたいという人も少なくないと思います。  
ですが、中には「身だしなみが大事」などの理由で、制服は必要という人もきっといます。

**多数決では解決できないとき**

このように意見がすれ違った時、単に多数決だけで決めることもできますが、これだと少数の意見を持った人たちは納得しませんよね？ 互いに納得する解決方法を出すためには、お互いが納得できる新たな選択肢を生み出す「話し合い=対話」が必要です。お互いの考えを聞き合うことで、「なるほど、そういう考えもあるんだ」と気づくことができます。対話を通して、自分の意見を見つめ直したり、相手の考えを理解できたりすることもあります。たとえ意見がまとまらなくても、話そうとする姿勢があれば、相手を尊重する気持ちが自然と芽生えていくんじゃないかと思います。

**過去から学べること**

対話は、身近なところだけでなく、社会全体でも大活躍します。ですが、過去の歴史を見ると、そうした「対話」ができずに、これまで多くの争いが起こってしまいました。日本でも、戦争の時代には「相手の意見を聞く」よりも、「従うべきだ」「言うことを聞け」という考えが強くなり、国の中でも意見が言えない空気が広がってしまいました。その結果、多くの命が失われ、人々の生活も壊れてしまいました。戦争は、話し合いができなくなったときに起こる恐ろしい出来事だと思います。戦争が始まる前にもっと対話ができているなら、違う道を選べたかもしれません。

**今の私たちにできる対話**

だからこそ、私たちは過去から学ぶ必要があります。今の社会でも、意見が合わないことはたくさんあります。でも、すぐ相手を否定せずに、「なぜそう思うのか」を聞くことが大切です。対話は、対立を小さくし、理解を広げることができます。過去に多くの人が苦しい経験をしたからこそ、今の私たちは「言葉で向き合うことの大切さ」を知っているはず。争いを繰り返さないために、私たちは日常の身近な話し合いから、「対話の力」を育てていきたいです。

# 良い話し合いの進め方

## ファシリテーション入門



8ページでは、対話の大切さについて学びました。ここでは、実際にみんなで話し合いをするときに役立つ、“良い会議の進め方”を4つのステップで紹介します。学校行事の企画やクラスの話し合いでも使える方法です。

### STEP 03 整理する

#### 分類と評価

広げたアイデアを意味のあるグループに分け、検討！

- 1 出たアイデアをグループごとに整理する。  
(例: 食べ物系、体験型、展示など)
- 2 評価基準(ものさし)を決める。  
(例: 楽しさ、実現可能性、集客力、値段など)
- 3 評価軸に基づき、上位3~5案を絞り込む。  
(多数決だけでなく、理由を話しながら決める!)

**POINT** 主観ではなく“基準で比べる”ことで納得しやすい話し合いになる!

対話にはスキルが必要だよ!



### STEP 04 まとめる

#### 決定と次の行動

全員が納得する決定をし、次に何をするかを明確に!

- 1 絞り込んだアイデアについて、それぞれのメリット・デメリットを検討し、最終的にチームとしての意思決定を行う。全員の合意形成を重視する。  
※多数決でもOK(1人3票とかやるといい)
- 2 反対意見の確認! 「この決定に反対する人はいますか?」とあえて問いかけ、小さな懸念もつぶしておく。(コミットメントを高める)
- 3 決定したことに対して、次に何をするか(アクションプラン)を決める。(誰が、いつまでに、何をするか)

**POINT** 決まった後の動き方まで共有すると、チーム全体がスムーズに動けます。

チーム全員で前へ進もう!

### STEP 01 揃える

#### 目標とルールの共有

話し合いのスタートラインを揃えるステップ

- 1 目標を明確にする。(例: 来場者が楽しめる出し物にした、予算内でできるものなど)
- 2 制限や条件を確認する。(例: 使える場所、予算、準備期間など)
- 3 グラウンドルールを決める。(例: 人の意見を否定しない、一人が長く話さない など)

**POINT** ルールが決まっていないと、話が脱線したりケンカになったりしやすくなるから、ルール決めが大事!

アイデアは見える化しよう!

### STEP 02 広げる

#### アイデアをたくさん出す

多様な意見をたくさん出すことを重視

- 1 自由にアイデアを出す。(“こんなのがあったら面白い!”を大事にする)
- 2 一部の生徒だけが話すのを防ぎ、全員が参加しやすい方法を使う。(ブレインストーミング、KJ法など)
- 3 出た意見を見える化する。(ホワイトボードや模造紙に書く)

**POINT** “質より量”で、まずは自由にアイデアを出すことで、新しいアイデアが生まれる。(否定される心配がない安全な場を作る重要性を教える)

#### まとめ

良い話し合いは、揃える ▶ 広げる ▶ 整理する ▶ まとめる の4つの流れで進めます。これは学校生活だけでなく、将来の社会でも使えるスキルです。日頃から“対話の力”を育てよう!



## 高校生の「ちゅらマナーアップ」フォーラム

### 戦後80周年 高校生が考える「平和と対話」



沖縄県高校生「ちゅらマナーアップ」フォーラムが、2025年10月22日(水)にアイム・ユニバースでだこホール(浦添市)で開催されました。

第一部は株式会社roku youの下向依梨氏による講演、第二部は平和学習コーディネーターの安里拓也氏をコーディネーターとして、下向依梨氏、沖縄県警の比嘉徳正氏、ちゅらマナープロジェクトのメンバーとのパネルディスカッションが行われ、“戦後80周年 高校生が考える「平和と対話」”についてさまざまな意見交換が活発に繰り広げられました。

#### 第一部 基調講演



株式会社roku you  
下向 依梨氏による基調講演  
「対話から始める平和づくり」

ちゅらマナープロジェクト発表  
各班に分かれてワークショップを  
通じて学んだことを発表

#### 第二部 パネルディスカッション

##### コーディネーター

- (株)さびら 平和学習講師・ファシリテーター 安里 拓也

##### パネラー

- 沖縄県警察本部生活安全部 少年課  
少年サポートセンター所長 比嘉 徳正
- ちゅらマナープロジェクト2025 高校生4名
- 株式会社 roku you 下向 依梨

パネルディスカッションの様子



#### 運営の様子



会場受付・来場者案内



会場周辺の看板設置



本番前のミーティング

## 沖縄から考える平和への歩み

### 安里拓也先生からのメッセージ

戦後80年を迎える今も、沖縄は沖縄戦から基地問題まで続く理不尽な暴力に直面しています。凄惨な沖縄戦の記憶を語り継ぐことは、犠牲者の思いを受け継ぎ、二度と同じ過ちを繰り返さないための道しるべとして不可欠です。

歴史を学ぶのは、単に過去を知るためだけではなく、社会に広く目を向け、戦争という直接的な暴力だけでなく、身近な差別や貧困といった「目に見えない暴力」に気づき、誰もが大切にされる社会をつくるためです。

その第一歩は、世の中に関心を持ち、異なる意見に耳を傾ける「対話」にあります。対立を越えて「新しい選択肢」を共に作り出していく丁寧な歩みこそが、より良い明日を創り出す鍵になります。歴史の継承を力に変え、身近なところから対話を積み重ねていくこの身近な取り組みこそが、平和への確かな一歩に繋がります。



#### 参考文献リスト

- 【書籍】
- ヨハン・ガルトゥング、藤田 明史(編著)『ガルトゥング平和学入門』法律文化社、2003年
  - 堀 公俊(著)『ファシリテーション入門(第2版)』日本経済新聞出版社、2018年
  - 高山 朝光、比嘉 博、石原 昌家(著)『沖縄「平和の礎」はいかにして創られたか』高文研、2022年
  - アダム・カヘン(著)、小田 理一郎(解説・翻訳)『それでも、対話をはじめよう—対立する人たちと共に問題に取り組み、未来をつくりだす方法』英治出版、2023年

#### 【Webサイト・デジタル資料】

- 沖縄県「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book 令和5年版」
- 琉球新報デジタル「沖縄戦って、どんな戦争だったの?」
- 沖縄タイムス「沖縄戦デジタルアーカイブ 新聞でたどる戦後沖縄」

